

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立北野保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2 歳児クラステーマ『色』

<テーマの設定理由>

絵の具遊びや色水遊びをしたときに、「青と黄色を混ぜたら、緑になった!」「えー、なんで?」など色の変化に気づき、驚いたり繰り返し試したりする姿が見られる。広い園庭やテラスでは、光がふんだんに降り注ぎ、また水道から水を容易に出せるなどの環境があるため、身の回りの色や色の変化への興味・関心をさらに深められるようにしたいため。
--

2. 活動スケジュール

【Ⅰ期】色が出てくる絵本や歌を見たり聞いたりして、色の名前を知ったり身近なものの色に興味をもったりする。どろんこ遊びや色水遊びを経験する。 【Ⅱ期】色水遊びや絵の具遊びを十分に経験し、繰り返し遊ぶ中で、自分でやってみたいという意欲が高まり、探究活動が盛んになる。感じたことを保育者や友達に伝える。 【Ⅲ期】色セロファンと光を組み合わせるなど絵の具以外のものでも、色が作り出せることに気づき、興味関心が広がっていく。
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】丸テーブル、ジャグボトル、絵の具、ゼリー容器などの空き容器、丸水槽、 【環境設定】 ジャグボトルに絵の具を混ぜた水をあらかじめ入れておく。 空き容器や丸水槽を多く用意しておく。 色水を3色以上用意しておく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵の具を混ぜた色水やゼリー容器などの空き容器を十分に用意し、色水を集めたり移し替えたりして遊ぶ。色水は、ペットボトルとジャグボトルに用意した。ペットボトルは主に保育者が扱うことで子どもとのやりとりを楽しめるようにし、ジャグボトルは子ども自身が量を調節しながら注ぐことができるようにすることで、主体的に遊べるよう環境を整えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者がテーブルに色水を並べ、「いらっしゃいませ」とジュース屋さんごっこを始める。そこへ「ソーダください。」「わたしはいちご。」と赤・青・黄の色から連想するものを言い、色水をもらっていく。そのうち2・3色の色水をもらい、一つのカップに複数の色水を入れると、「あれ？色が変わった？」「むらさきだよ。」などと言い、色の変化に気づく。すると、新しく2つのカップを持ってきて、もらった色と同じ2色をそれぞれのカップに入れる。今度は、自分でカップからカップへ色水を移し、「あ、むらさきになったよ！」と笑顔を見せ保育者に知らせる。「何と何を混ぜたの？」と保育者が聞くと、「いちごとソーダ！」と話す。それを見た近くのこどもは、ジャグボトルから同じ色を混ぜてみて、「同じだね！」と笑いあっていた。

その後、違う色も混ぜてみようとし、赤と黄を混ぜる。今度は、「オレンジになった！」と色の変化に気づく。様々な色の色水を丸水槽に集めていた。



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・2色以上混ぜると色が変わるということに気づくと、同じ色を繰り返し混ぜたり違う色を混ぜたりする姿からは、“同じ色を混ぜれば同じ色になるだろう”“違う色ではどうなるだろう”という予測と疑問をもち、理解を深めようとしていることがわかった。
- ・色水の割合によって、色が違うことに不思議そうな表情を見せていたが、探求が深まらなかった。色の違いに気づけるような関わりや並べる・比べることができるようにするなど環境の工夫が必要と感じた。
- ・その後の遊びで木ごまに色を塗り回した時には、「先生、茶色になった。」という言葉の表現から、複数の色が混ざったことによって変化したのだろうという予測がつくようになったのではないと思う。色水遊び等の経験が他の場面での色への興味関心につながっていると感じた。